様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ２４ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ００９１３

研究課題名（和文）中国古代家計経済の数量史的研究

研究課題名（英文）Quantitative Study on Household Budget in Early China

研究代表者
柿沼　陽平（Kakinuma, Yohei）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：７０６３３３１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本課題では中国古代の民間家計関連史料を収集・整理し、数量的に分析するという研究目的を掲げた。その最大の成果は、後漢末～三国時代の長江中流域にあった吉陽里・宜陽里という二つの「里」レベルの家族構成・財産構成等を明らかにし、「里」が所謂共同体ではなく、戸籍上の行政区分にすぎないことを明らかにし、当時の民が季節ごと・年度ごとに複数の「丘」（自然聚落）のあいだで移住を繰り返していたことを論じたことである。さらに家計収支の研究成果を中国古代日常史全般に落とし込み、その研究成果を一般に還元した。その一成果が拙著『古代中国の24時間』（中央公論新社、2021年）である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
中国古代史といえば、重要な人物や事件に焦点をあてるものが多い。またマルクス主義史学の影響を受けた戦後歴史学では税制や土地制度の研究も多い。だが一般民の日常生活や家計収支に関する研究は手薄であった。幸いに近年、簡牘史料が激増し、上記諸問題に接近する手がかりが得られた。これによって中国古代の一般民の生活ぶりがリアルに判明するようになった。これが本課題の学術的意義である。またこれを日常史研究全般に落とし込み、拙著『古代中国の24時間』（中央公論新社、2021年）を刊行できた。これは平易な新書であり、たいへんな好感をもって一般大衆に受容されたものと理解している。以上が本研究の社会的意義である。

研究成果の概要（英文）：In this study, the aim was to collect and organize historical materials related to ancient Chinese household finances, and to conduct quantitative analysis. The major achievement was to elucidate the family composition and property structure of two "li" (administrative units) in the middle reaches of the Yangtze River during the late Han to Three Kingdoms period, namely Ji Yang Li and Yi Yang Li. It clarified that these "li" were not mere communities but rather administrative divisions in household registers. Additionally, it argued that people at that time frequently moved between multiple "qiu" (natural settlements) seasonally and annually. Furthermore, the study's findings on household finances were applied to the general history of daily life in ancient China and disseminated to the public. One outcome of this effort is my book "24 Hours in Ancient China" (Chuo Koron Shinsha, 2021).

研究分野：アジア史

キーワード：中国古代　秦漢史　日常史　経済史　家計　走馬楼呉簡　漢簡　商人

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

申請者はこれまで、中国古代における貨幣経済の具体的な展開過程と、それが当時の社会にいかなる影響を与えたのかを検討してきた。さらに後漢三国両晋時代を自然経済や物々交換経済とする通説に対し、最新の簡牘研究をふまえ、むしろ貨幣経済が急成長した時代として捉えなおした。だがそうすると、あらためて当時の民間経済の実態把握が課題となる。

おりしも中国では近年、戦国秦漢三国両晋時代の簡牘が続々と公開され、そこに民間家計収支や物価に関する膨大な史料が含まれていた。ところが、21 世紀に入ってから中国古代貨幣経済史研究に従事しているのは事実上ほとんど申請者ひとりであり（『史学雑誌―回顧と展望』参照）、膨大な史料はほぼ検討されずに残されている。それらの分析を通じ、民ひとりひとりの経済生活水準をきめ細かく明らかにし、それによって貨幣経済の実態を解明する必要がある。これこそ申請者が本研究の着想に至った経緯である。

２．研究の目的

中国古代の人びとは具体的に毎月どの程度稼いでいたのか。個々の家では毎月、何にどのような項目に対して、いかほどの支出をし、どれくらいの財産を有していたのか。「中国古代の人びと」や「個々の家」といっても千差万別であるが、個々の家々の状況に即して、彼らの家計収支をきめ細かく数量的に把握することはできないか。これが本研究の第一の「問い」である。

民の生活水準を正確に把握するには、家計収支をとりまく諸物価の推移をも把握しておかねばならない。よって上記の「問い」は、必然的に中国古代物価史研究の重要性をも浮き彫りにする。つまり、当時の人びとは毎日具体的にいくらで何を売買していたのか。これが第二の「問い」となる。さらに家計支出には納税額も含まれるのであるから、税額の推移も把握しておかねばならない。これが第三の「問い」である。

３．研究の方法

課題①： 関連史料（とくに簡牘）をデータベース化・訳注化する。

戦国秦漢魏晋時代の簡牘には、戸籍と田地面積をしめす史料が数多く含まれる。それらを用いて、複数のムラの戸籍と田地の広さを把握し、その統計をとる。とくに長江中流域の長沙市で出土した簡牘は、戦国秦漢魏晋時代の長沙郡の状況を通時的にしめすものであり、絶好の地域史研究史料である。そこでまずは簡牘の釈文を逐次的に検討し、全文データベースを作成する。この作業は現時点でほぼ済んでいるので、2021 年度からはその検証を行ない、反復的に補填・修正をする。さらに重要な簡牘史料に関しては、先行研究をふまえて訳注を作成し、学術雑誌に投稿してゆく。それによって第三者の吟味・批判をあつめ、より精確な史料読解を図る。

また伝世文献のなかにも家計収支・物価に関する史料があるので、それらにも検討を加える。とりわけ『史記』平準書と『漢書』食貨志は基礎中の基礎であるが、なお吟味すべき点が少なくない。たとえば『漢書』には歴代膨大な注釈書が編纂されているが、その悉皆調査はなされていない。そこで歴代注釈書と簡牘研究をふまえ、『史記』平準書と『漢書』食貨志を根本的に読み込み、将来的にそれらの訳注書を刊行予定である。

課題②： 家計収支を数量的に把握する。

上記課題①をふまえ、戦国秦漢魏晉時代の家計の事例を網羅的に調査し、平均値や中央値、もしくは時代差や地域差を求めてゆく。簡牘（とくに走馬楼呉簡）によれば、田地の大きさや作物の種類、もしくは農法が判明しつつあるが、それと収穫高はどのように連関するのか。既存の農業史研究や、最新の DNA 研究に基づく穀物遺物研究、さらには考古学的に出土した農作物遺物の研究をふまえ、精確に家計収支を調べる。

課題③：物価推移を数量的に把握する。

戦国秦漢魏晉時代の諸物価について悉皆調査する。すでに王仲犖『金泥玉屑叢考』や丁邦友・魏曉明編著『秦漢物価史料匯釈』という史料集があるので、その検証作業から始め、さらに史料的補遺を行ない、2020 年以降に公開される簡牘史料も補う。また税制に関しては、汗牛充棟ただならぬ先行研究があるが、近年公開された嶽麓書院蔵秦簡や走馬楼呉簡には通説で理解しえぬ税制がみられる。その実態を解明したうえで、民の通年の負担額を数量的に把握する。

課題④：フィールド調査に基づき、戦国秦漢魏晉家計経済の実態把握を試みる。

2022～2023 年度に中国でフィールドワークをする。近年発掘がすすむ戦国秦漢魏晉時代の長江中流域の村落遺跡を踏査し、現地研究者と協力しながら、穀物遺物・田畑遺跡・農具の実見調査をすすめ、文献による家計収支研究（課題①）を裏付ける。

４．研究成果

本課題では中国古代の民間家計関連史料を収集・整理し、数量的に分析するという研究目的を掲げた。

とくに上記課題②～③に関連する成果として、柿沼陽平「三国時代における孫呉の郷里社会――荊州長沙郡臨湘侯国の小武陵郷吉陽里と南郷宜陽里を例に――」(『三国志研究』第 17 号、2022 年 9 月,37-61 頁）がある。これは、後漢末～三国時代の長江中流域にあった吉陽里・宜陽里という二つの「里」レベルの家族構成・財産構成等を明らかにし、「里」が所謂共同体ではなく、戸籍上の行政区分にすぎないことを明らかにし、当時の民が季節ごと・年度ごとに複数の「丘」（自然聚落）のあいだで移住を繰り返していたことを論じたことである。さらに史料調査をすすめる過程で、各史料の基礎的性格を見定める必要があり、柿沼陽平「漢代の西域と敦煌の羌族」(『雲漢』第 1 号、2023 年 3 月,128-143 頁)、柿沼陽平「中国古代の「日書」とその本質――「日書」と商業の関係解明をめざして――」(『史学研究（広島大学)』第 315 号、2023 年 6 月,39-61 頁)、柿沼陽平「秦律令の地域性と「新地」の統治」(『日本中国学会報』第 75 集、2023 年 10 月,3-18 頁）を発表した。

さらに家計収支の研究を中国古代日常史全般のなかに落とし込み、その成果を一般に還元した。その成果として、柿沼陽平『古代中国の 24 時間』（中央公論新社、2021 年）がある。また基礎史料の研究成果（つまり課題①）として、柿沼陽平編訳注『岳麓書院蔵秦簡「為獄等状四種」訳注』（平凡社、2024 年）もあり、柿沼陽平『『史記』平準書訳注』を刊行予定である。

また課題③、つまりフィールドワークの成果として、簡牘の実見調査をすることができた。さらに欧米や中国でたびたび学会報告や講演をおこない、現地研究者と学術交流をするほか、今後簡牘を調査するうえで必要となる人脈を形成できた。結果、2024 年 6

月に北京大学出土文献与古代文明研究所とともに北京大学蔵秦漢簡牘研究会を共催することが確定し、甘粛省簡牘博物館とも共同シンポジウムを主催する手筈となっている。これらでとりあげる史料群はいずれも中国古代物価史・中国古代日常史研究にとって必須である。2024 年度以降の次の科研費課題「中国古代日常史研究―明器と遣策を中心に―」にも接続するものである。最終的にはこれら一連の研究をふまえ、中国古代の経済生活史を解明する予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 柿沼陽平	４．巻 144
２．論文標題 魏晋南北朝時代の仏僧と商人	５．発行年 2022年
３．雑誌名 東方学	６．最初と最後の頁 38-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柿沼陽平	４．巻 17
２．論文標題 三国時代における孫呉の郷里社会――荊州長沙郡臨湘侯国の小武陵郷吉陽里と南郷宜陽里を例に――	５．発行年 2022年
３．雑誌名 三国志研究	６．最初と最後の頁 37-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柿沼陽平	４．巻 104-2
２．論文標題 魏晋南北朝時代における仏教と剃髪	５．発行年 2022年
３．雑誌名 東洋学報	６．最初と最後の頁 101-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柿沼陽平	４．巻 1
２．論文標題 漢代の西域と敦煌の羌族	５．発行年 2023年
３．雑誌名 雲漢	６．最初と最後の頁 128-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 柿沼陽平
２．発表標題 Paper Currency in Ming Period Observed via Questions and Answers on Civil Examination
３．学会等名 WEHC2022（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 柿沼陽平
２．発表標題 秦による楚地支配と被征服民
３．学会等名 日本中国学会第74回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 柿沼陽平
２．発表標題 中国古代の民俗宗教と商業――「日書」と商業の関係に関する一考察――
３．学会等名 2022年度広島史学研究会大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 柿沼陽平
２．発表標題 「漢代の西域と敦煌の羌族」
３．学会等名 Workshop: Chinese languages and its surroundings（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 柿沼陽平
２．発表標題 中央アジア出土の中国式コイン
３．学会等名 2021年度シルクロード学研究会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計3件

１．著者名 柿沼 陽平	４．発行年 2021年
２．出版社 中央公論新社	５．総ページ数 336
３．書名 古代中国の24時間	

１．著者名 柿沼陽平	４．発行年 2024年
２．出版社 平凡社	５．総ページ数 282
３．書名 岳麓書院蔵秦簡　「為獄等状四種」訳注 下	

１．著者名 柿沼陽平	４．発行年 2024年
２．出版社 平凡社	５．総ページ数 322
３．書名 岳麓書院蔵秦簡　「為獄等状四種」訳注 上	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関